

## 第2部

# 事業の総括評価



# 平成30年度 地域課題対応人材育成事業 「地域コアリーダープログラム」総括評価

## 1 趣 旨

多様な個人が能力を発揮しつつ、自立して共に社会に参加し、支え合う「共生社会」を築いていくためには、地域住民や非営利団体などによる社会活動の充実が必要不可欠であるという認識のもと、地域課題対応人材育成事業「地域コアリーダープログラム」では、高齢者関連活動、障害者関連活動及び青少年関連活動の各分野において社会活動に携わる日本青年を海外に派遣している。また、海外の非営利組織などで活動する青年リーダーを日本に招へいし、国内での相互交流を通じて、地域における社会活動の中心的担い手となる青年リーダーの能力の向上と、各国、各分野間のネットワークの形成を図ることを目的として実施している。（※）

平成30年度は、ドイツ連邦共和国（以下「ドイツ」）、フィンランド共和国（以下「フィンランド」）及びニュージーランドの3か国を相互交流の対象国として実施した。

「日本青年派遣」では、高齢者関連活動に携わる青年をドイツ、障害者関連活動に携わる青年をフィンランド、青少年関連活動に携わる青年をニュージーランドに、総勢27名派遣した（団長を含む）。

「外国青年招へい」では、上記3か国から高齢者・障害者・青少年関連活動に携わる外国青年を総勢27名招へいし、同関連分野で活躍する青年と日本青年を含む4か国による多国間交流を行った。

日本青年の育成の観点から、内閣府青年国際交流事業の共通の目的は「国際社会の各分野でリーダーシップを発揮し、社会に貢献する青年を育成する」ことであり、本事業ではこれに加えて、非営利団体の運営能力向上及び専門分野の知識の向上、並びに3分野が連携するネッ

トワーク作りを目指している。

本事業では、以上の目的を達成するため、関連分野の課題に応じて総合テーマを定めるとともに、派遣団については、団ごとにテーマを設定して取り組んでいる。その上で、テーマに沿った訪問国及び地方行政からの関連施策の概要説明、表敬訪問、先進的・特徴的な社会活動現場や関連施設への訪問、同施設関係者などとの意見交換、ホームステイなど、様々なプログラムを実施し、中でも、関係者との情報交換や意見交換を重視している。こうしたプログラム内容については、毎年度、交流対象国に対して要望を出しながら、見直しを行っている。

また、「外国青年招へい」では、多国間での情報交換と日本の現状について理解し、発信することが可能な内容に組み立てるべく、三つの関連活動の非営利分野で活躍する日本青年と外国青年が一堂に会してNPO事情や活動事例に基づく議論を行う「NPOマネジメントフォーラム」を実施している。その他にも、活動分野ごとに日本の地方都市を訪問する地方プログラムを実施している。

本年度事業の成果を測るため、派遣青年及び外国参加青年、並びにNPOマネジメントフォーラムの日本参加者全員を対象として、事業終了時にアンケート評価を行った。アンケート評価の数値基準は、5段階評価（評価の高い方から5～1）を基本とした。

本報告書では、「日本青年派遣事業」及び「外国青年招へい事業」に分け評価する。

※ 本事業は、平成27年度まで、「青年社会活動コアリーダー育成プログラム」として実施された。

## 2 評価結果

### 1. 日本青年派遣事業の達成度

#### ① 訪問国の専門分野事情への理解

「訪問国政府又は関連機関からの説明」に関して、5段階評価の4（有益だった）以上と回答した日本青年は100%であり、5（大変有益だった）の回答は63%と高評

価であった。

#### ② 非営利団体への理解

「非営利団体の訪問時のプログラム内容」に関して、3（ある程度有益だった）以上と回答した日本青年は100%であり、4（有益だった）以上は96%と、5（大変

有益だった)の回答は67%と高評価であった。

また、「非営利団体訪問におけるスタッフとの情報交換及び意見交換」に関して、3(ある程度有益だった)以上と答えた日本青年は95%であり、4(有益だった)以上は87%、5(大変有益だった)の回答は54%であった。

### ③ 参加者間のネットワーク

「訪問国における関係者との関係構築について」という問いに対して、3(ある程度構築できた)以上と回答した日本青年は96%であり、4(構築できた)以上は58%、5(よく構築できた)の回答は38%であった。

「今後他分野の参加青年ともコミュニケーションを続け、連携することができるか」という問いに対して、3(ある程度出来る)以上と答えた日本青年が96%で、4(出来る)以上は58%、5(よく出来る)の回答は13%であった。

訪問国活動並びに国内研修においては、限られた時間の中で団内の関係作りや専門分野に関する知識向上を中心としたプログラムを実施している。訪問国の関係者や他分野の青年とのネットワークづくりに向けては、今後の事業実施において、より効率的に交流が出来るような活動を組み込むことが重要である。

### ④ 事業参加による参加青年の将来への影響

「地域における社会活動の中心的担い手として活躍していくことに対し、意欲が増しましたか」という問いに対して、3(ある程度増した)以上と回答した日本青年は100%であり、4(増した)以上は92%、5(とても増した)以上は46%と、高評価であった。

「派遣プログラムは、あなたの将来に役立つか」という問いに対して、3(ある程度役立つと思う)以上と回答した日本青年は100%であり、4(役立つと思う)以上は96%、5(とても役立つと思う)以上は83%と、高評価であった。

### ⑤ 日本参加青年の成長(自己評価の向上度)

本事業に参加したこと向上した個人の能力について、アンケート結果をもとに検証したところ、3(効果があった)以上と回答した日本青年の割合は、次のとおりであった。

「訪問国の基礎知識・理解」	100%
「コミュニケーション力」	87%
「リーダーシップ」	83%
「異文化に対応する能力」	92%
「主体性・積極性・チャレンジ精神」	96%
「集団生活への適応力(協調性・柔軟性など)」	100%
「日本人としてのアイデンティティと誇り」	100%
「責任感・使命感」	100%
「自己管理能力」	96%
「ディスカッション力」	96%

いずれも高評価であり、5(著しく大きな効果があった)と4(大変な効果があった)の評価も多く、特徴を把握するために成長度が高いとの自己評価があった項目を検証した。

特に高かった項目は「訪問国の基礎知識・理解」、「自己管理能力」、「ディスカッション力」であった。その理由として、短い事前研修において、団の目標などを青年が自主的に決めていく活動や、役割分担に基づいた自主研修期間中の取組が効果的に行われたこと、さらには訪問国や日本の専門知識を十分に深めて派遣に臨んだことが、このような評価につながっていると考察できる。

また、そのほかに高い項目は、「日本人としてのアイデンティティと誇り」、「主体性・積極性・チャレンジ精神」、「責任感・使命感」であった。その理由として、プログラムにおける多様な場面での多彩な人々との意見交換を通じた実践的経験、日本青年代表としての表敬訪問など、普段体験することができない貴重な経験を通じて、日本代表としての自覚が芽生えていったのではないかと考察できる。

その他には、「異文化に対応する能力」、「集団生活への適応力(協調性・柔軟性など)」の項目が高評価であった。

一方、「コミュニケーション力」、「リーダーシップ」の項目は、他の項目に比べ伸びが低かった。参加者が短期間に新しい環境で人間関係を築き上げるにあたり、事前研修の際に専門分野の知識向上に関する活動だけでなく、チームワークを促すようなプログラムを組み込むことによって伸びる素地をつくれるのではないかと考察できる。

## 2. 外国青年招へい事業の目的の達成度

### ① 日本の専門分野への理解

「このプログラムから何を学びましたか」の問いに対して、85%の外国青年が「日本における専門分野の現状」と答えた。「政府職員による各分野の現状の講義」について、5段階評価の3(ある程度効果的)以上をつけた外国青年は96%であり、4(効果的)以上が93%、5(とても効果的)が33%であった。

### ② 日本の非営利団体への理解

「このプログラムから何を学びましたか」との問いに対して、48%の外国青年が「日本におけるNPO運営の現状」と答えた。「日本のNPOの現状についての基調講演」については、3(ある程度効果的)以上をつけた外国青年は89%であり、4(効果的)以上は70%、5以上は11%であった。

ネットワーク構築という観点から、参加者の中には行政や民間企業を活動母体とした者も含まれているため、非営利団体に関する基本的な経験や関心の高さが、上述

の結果の背景にあると考察できる。地域社会における関係者間の相互理解と連携深化という観点においては、異なる背景を有する参加者がともに活動することは有意義であるため、事業の趣旨を一層明瞭にしたうえで、参加青年へのコミュニケーションを図ることがプログラム実施において求められる。

### ③ 参加者間のネットワーク

「日本と他国の参加青年とも今後のネットワークにつながる交流を行うことができましたか」との問いに対して、3（ある程度出来た）以上の回答は96%、4（出来た）以上は78%、5（とても出来た）以上は19%であった。

「このプログラムは、日本と他国の専門家たちとのネットワーク構築に貢献するか」との問いに対して、3（普通）以上の回答は93%、4（そう思う）以上は78%、5（とてもそう思う）以上は19%であった。

### ④ 事業参加による参加青年の将来への影響

「地域課題解決に向けた中心的担い手として活躍していくことに対し、意欲を増しましたか」との問いに対しては、3（ある程度に増した）以上をつけた外国青年は100%、4（増した）以上は81%、5（とても増した）以上は22%であった。

「このプログラムは、あなたのキャリアに役立つと思いますか」との問いに対して、3（ある程度思う）以上をつけた外国青年は89%、4（思う）以上は78%、5（とても思う）以上は30%であった。

「地域を越えて、国レベルでの活動意欲が増した」、「訪問団体における情熱や影響を与え続けるさまを目の当たりにし、感化された」などの感想があり、参加青年のエンパワメントに貢献したことが伺えた。

## <NPOマネジメントフォーラム>

### ① 非営利団体への理解

「NPOマネジメントフォーラムへの参加を通じて、何が得られましたか」という問いに対して、「非営利団体の事業展開に関する情報」と回答した外国青年は82%、「非営利団体の組織強化・充実の方法」の回答は52%、「各国の非営利団体の状況に関する情報」の回答は85%であった。同様の問いに対するフォーラムの日本参加者の回答は、順に33%、38%、67%であった。

このような結果については、全体テーマの設定とディスカッションプログラムの企画内容において、具体的なマネジメントのノウハウに関する事例共有が不十分だったことが考えられる。今後の取組として、フォーラムのテーマ設定やプログラムの組成にあたって、日本参加者と外国参加青年が共に関心を持つ内容を設定し、意見交換しやすい環境作りをすることが、プログラム実施においては必要と考えられる。

### ② 参加者間のネットワーク

「NPOマネジメントフォーラムへの参加を通じて、何が得られましたか」という問いに対して、「参加者間のネットワーク作り」と回答した外国青年は78%、日本参加者は88%であった。

「外国または日本参加者とネットワークを構築できるようなコミュニケーションをとることができたと考えますか」という問いに対して、外国青年の回答は、3（ある程度出来た）以上が100%、4（出来た）以上は44%、5（とても出来た）は33%であった一方、日本参加者の回答は、3（ある程度出来た）以上が92%、4（出来た）以上は58%、5（とても出来た）は17%であった。

### ③ 参加者への将来の影響

「NPOマネジメントフォーラムにおける体験が、今後自分の団体運営や地域における効果的なプログラムの実施に役立つか」との問いに、外国青年の回答は、3（ある程度役立つ）以上が100%、4（役立つ）以上は63%、5（とても役立つ）は15%であった一方、日本参加者の回答は3（ある程度役立つ）以上が96%、4（役立つ）以上は79%、5（とても役立つ）は25%であった。

## <地方プログラムについて>

### ① 専門分野への理解

地方プログラムは、各分野に関連ある特定のテーマに沿って訪問プログラムを設定し、外国青年と団体関係者が意見交換を行い、事例を共有することを目的に実施された。

「地方プログラムの内容が、目的を達成するために効果的でしたか」という問いについて、4（効果的だった）以上と回答した外国青年が、熊本県（高齢者分野）で89%、大分県（障害者分野）で100%、鳥取県（青少年分野）100%であった。5（とても効果的だった）と回答した外国青年は、熊本県で56%、大分県で56%、鳥取県で22%であった。

「地方プログラム全体の満足度について」は、4（満足）以上と回答した外国青年が、熊本県で89%、大分県で100%、鳥取県で89%であった。5（とても満足）と回答した外国青年は、熊本県で33%、大分県で56%、鳥取県で11%であった。

### ② 参加者間のネットワーク

地方プログラムの総まとめとして地方セミナーが開催され、外国青年と同分野で働く訪問県の関係者が一堂に会し、同じ分野で働く者としての志を共有・ネットワークを築くことを目的に実施された。

「地方セミナーの内容が、目的を達成するために効果的でしたか」という問いについて、4（効果的だった）以上と回答した外国青年が、熊本県で89%、大分県で89%、鳥取県で89%であった。5（とても効果的だった）

と回答した外国青年は、熊本県で44%、大分県で11%、鳥取県で11%であった。

「地方セミナーの満足度について」は、4（満足）以上と回答した外国青年が、熊本県で67%、大分県で78%、鳥取県で89%であった。5（とても満足）と回答した外国青年は、熊本県で22%、大分県で11%、鳥取県には見られなかった。

### 3. 総合評価

「日本青年派遣」では、訪問国プログラムの全体評価は、4（良かった）以上の評価が100%であり、5（大変良かった）以上が88%であった。「外国青年招へい」

のプログラム全体の満足度は、3（ある程度満足）以上の評価が100%であり、4（とても満足）以上は92%であった。

また、「本プログラムを通じて日本と参加国の相互理解を深めることができたと思いますか」という問いに対して、4（そう思う）以上と答えた日本青年が75%で、外国青年が93%であり、一定の評価を得ることが出来た。

これらの評価より、青年たちの能力向上と成長、並びに分野と国を超えたネットワーク構築という観点において、平成30年度「地域コアリーダープログラム」は十分な成果を挙げたと結論付けることができよう。